

## 自主ゼミナール 現代社会と仏教

### 第3回 Zoom 安居（あんど）

# 「どうなる!?どうする?これからの寺院」

## ～コロナで変容したお布施について～

令和2年7月21日(火)午後6時半～8時  
管理人:栃木県 浄土宗一向寺住職 東好章  
パネリスト:東京都 行政書士 勝桂子  
パネリスト:京都府 ジャーナリスト 鶴飼秀徳  
司会:長野県 浄土宗玄向寺副住職 荻須真尚  
スタッフ: 堀下剛司

#### 【開催趣旨】

新型コロナウイルスの発生、世界中での流行により、社会システム全体で大きな影響が出ています。日本においては、5月に非常事態宣言が解除されたましたが、その後、感染者数は0になるどころか、再び感染拡大しており、1日の感染確認者数は連日、過去最高を記録し続けています。

この状況を第2波の入口と分析する専門家もおり、7月の東京を中心としたお盆は終わりましたが、今度は8月の地方を中心としたお盆を迎えるにあたり、帰省に伴う多くの人々の東京などの大都市から地方への移動、夏休みの旅行等で、感染拡大が爆発的に起こらないかと懸念されています。

この新型コロナウイルスは、人々のこれまでの生活や仕事を大きく変えました。

具体的には、仕事が減り、収入が減少した人が大半だと思います。

それは、檀信徒・門徒・信者(以後、まとめて「信者」とする)の皆様に加えを説く「法施」を行い、信者の皆様は「財施」として僧侶に施す、いわゆる「お布施」をお預かりしていた、私達僧侶も同じです。

この新型コロナウイルスの流行は、ワクチンと特效薬が開発され、人々に普及するまでに、1～2年はかかるといわれています。

この状況を、寺院と僧侶はどうすればよいのか。

今回は、「どうなる!?どうする?これからの寺院」～変容したお布施について～と題して、この難局を乗り越える方法を、Zoom 安居の運営スタッフの中より、生きづらさと向き合う任意団体「ひとなみ」を主宰し、僧侶に対して数々の提言を行っている行政書士の勝桂子と、一般社団法人「良いお寺研究会」を立ち上げ、現代社会に佛教をいかに生かしていくかに取り組んでいる、浄土宗僧侶でフリージャーナリストの鶴飼秀徳の2人がパネリストとなり、司会は荻須真尚が務め、忌憚のない意見を交わして、近い未来を予測しながら、寺院と僧侶はこうしたらどうかという提言に結びつけたいと考えています。

この Zoom 安居にご参加くださいました皆様、僧侶の立場から、信者の立場から、「自分だったらどうするか」ということを考えながら、パネルディスカッションをお聞きいただき、終了後に皆様からのご感想、ご意見を頂戴し、その後、それらをスタッフで整理して、まとめた形で、再び参加者の皆様へお伝えする「学びの還元」、「未来に向けて今できること」を皆様とともに作り上げていく、全員参加型の自主勉強会形式にしたいと思います。

この Zoom 安居中、そして終了後にそれぞれが思い、考えたことを、専用の感想・意見コーナーよりお寄せください。

皆様のご協力をお待ちしております。

合掌

## 【本日の安居 次第】

1. 主催者挨拶
2. 新型コロナウイルスにてお亡くなりになられた方への追悼 合掌・礼拝・黙祷
3. 開催趣旨 説明
4. パネルディスカッション

第1回のまとめ： コロナ禍において、寺院・僧侶はどうすべきかについて、【布施】をキーワードに考え、論じた。  
ここでは、【目的】<何のために>について話し、【手段】<どうやって>については触れなかった。

第2回のまとめ： 「どうなる!?どうする?これからの寺院」～コロナ禍における差別問題とグリーフケア～と題し、  
「布施」の中の「無畏施」 仏教の「布施」、特に「無畏施」の考えに基づき、問題を考えた。

今回は、第1回と第2回を行ってきた上で、「布施」の中の「財施」、いわゆる「お布施」について、考えたい。

[メモ]

## 5. 質疑応答

[メモ]

## 6. 主催者挨拶 ・ お知らせ ・ お願い

- ① 感想・意見 寄稿のお願い
- ② Zoom 安居 運営費 寄付のお願い
- ③ hasunoha 回答者 募集のご案内

次回の予定 「                    について」